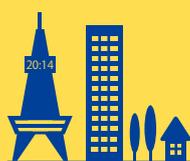


市長と語る

ふらっとホーム 2014
in 手稲区 開催報告



札幌のまちづくり

市民と市長がまちづくりについて意見を交わす「ふらっとホーム」。今年度は、10月12日に溪仁会ビルで開催し、6人の対話者と上田市長がさまざまな意見を交わしました。
このページでは、会場で交わされた意見の一部を紹介します。

◎詳細 総務企画課広聴係 ☎ 681-2432

除排雪



新聞に、今後、除排雪の費用が上がっていくと書いてありましたが、市は今の除排雪体制を維持していくことができるのでしょうか。

いまたまき
今滝さん

(上田市長)

当然、幹線道路は市で行いますが、生活道路をどの程度行っていくかということが、今後問題になっていくと思います。行政だけでは全てを賄うことはできませんので、市民の皆さんのご協力が大事になってきます。



高齢者の見守り

高齢者の孤立死が問題となっており、何かできないかと考えていますが、自分の力だけではなかなかできません。地域の皆さんと協力して何かできることはないのでしょうか。

くどう
工藤さん

(本間区長)

地区社会福祉協議会ごとに設置されている福祉のまち推進センターでは、町内会での見守り活動を支援しています。まずは、お近くのまちづくりセンターまでご相談ください。



ていぬのPR

手稲区マスコットキャラクター「ていぬ」を、区民をはじめ、区外の人にもっと知ってもらうことが大事だと思います。

みみや
三宮さん



(上田市長)

「ていぬ」はネーミングも良く、とてもかわいいですね。手稲区のマスコットキャラクターは「ていぬ」だと誰もが言えて、さらに、区民に地元意識を持ってもらえるようにすることが大事だと思います。



テーマ1

誰もが暮らしやすい

まちづくりについて

障がい児の外出

子ども用車いすは、一見、ベビーカーに見えるため、地下鉄などの公共交通機関を利用する際に、周囲から畳むよう注意されることがあります。この状況を知ってもらおうと、障がい児を持つ母親らが自主的に子ども用車いすのマークを作りました。

みかせ
御家瀬さん



(上田市長)



いろいろな事情を抱えた方がいることをみんなが認め合い、気に掛け合うことが大事だと思います。そういった市民の協力関係ができると、すてきなまちになっていくのだと思います。

今回のふらっとホームでの発言をきっかけに実現

◎子ども用車いすのマークをリーフレット内で紹介



市交通局で作成した、地下鉄におけるベビーカー利用を啓発するためのリーフレット。その中に、今回、対話者の御家瀬さんから紹介のあった子ども用車いすのマーク「バギーマーク」を掲載しました。障がいのある子どもたちが少しでも外出しやすくなるよう、皆さんへのご理解をお願いしています。